



ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

No.91

June 2016

応用地域学会ニュースレター

CONTENTS

1. 運営委員選挙の結果
2. 運営幹事等役員の選任
3. 第30回研究発表大会のご案内
4. 2016年度坂下賞候補者の推薦
5. 第6回アジア地域科学セミナー
6. 2015年度学会決算概要
7. 2016年度第1回運営委員会の概要
8. 特別寄稿 森杉壽芳先生追悼文
9. 事務局だより

1. 運営委員選挙の結果

ARSC選挙管理委員 大西正光 伊藤 亮

2016-2017年度ARSC運営委員選挙は、2016年3月11日締め切りで実施されました。開票集計は、3月18日選挙管理委員と事務局で行われました。結果、以下の20名の方々が選出され、運営委員に就任されましたのでご報告いたします。なお、各委員の所属機関は選挙時点のものです。

応用地域学会2016～2017年度運営委員

東地区(11名)：

赤松隆(東北大学)，浅田義久(日本大学)，有田智一(筑波大学)，伊藤亮(東北大学)，
太田充(筑波大学)，城所幸弘(政策研究大学院大学)，河野達仁(東北大学)，
高橋孝明(東京大学)，田淵隆俊(東京大学)，中島賢太郎(東北大学)，山崎福寿(日本大学)

以上11名(敬称略，順不同)

西地区(9名)：

大森達也(中京大学)，川崎晃央(鹿児島大学)，黒田達朗(名古屋大学)，小池淳司(神戸大学)，
佐藤泰裕(大阪大学)，高塚創(香川大学)，高山雄貴(金沢大学)，内藤徹(徳島大学)，
松島格也(京都大学)

以上9名(敬称略，順不同)

2. 運営幹事等役員の選任

事務局 宮本 成雄

新しい運営委員のもと、運営委員会が5月21日、東京で開催され、以下のように2016年度の運営幹事等の役員、委員会委員等が選任、又は任命されました。(太字名が今回の新任、敬称略・順不同)

2016年度ARSC役員等

○運営幹事（規程無）

- ・運営委員会内で選任。規定無。

<2016・2017>

総務（会員の入退会） 浅田 義久（日本大学）
会計（決算、予算） 河野 達仁（東北大学）
渉外（ニュースレター） 高塚 創（香川大学）

○監査委員（会則第9条3項）

- ・運営委員会が個人会員の中から委嘱する（2名）。任期の規程無。

<2015・2016>

中島 賢太郎（東北大学）
塚井 誠人（広島大学）

○選挙管理委員（選挙内規第3条）

- ・会長が指名する（2名）。任期の規程無。

<2015・2016>

伊藤 亮（東北大学）
大西 正光（京都大学）

○大会プログラム委員会（規程無）

- ・運営委員会で選任・委員長指名（開催大学・委員長の意向により委員の増減あり）

<2016年度(神戸大学)>

委員長 高橋 孝明（東京大学）
委員 石倉 智樹（首都大学東京）， 岩田 真一郎（富山大学）
織田澤 利守（神戸大学）， 高塚 創（香川大学）
中島 賢太郎（東北大学）

○坂下賞選考委員会（2004年度～）

<坂下賞選考規程>

[選考委員会] 第5条：運営委員会によって選出された3名の委員と会長及び副会長の5名によって構成される。委員長は、5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。

[選考委員の任期] 第6条：運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

<2016年度坂下賞選考委員会委員>

委員長 曾 道智 (東北大学 3年目)
委員 多々納 裕一 (京都大学 2年目)
城所 幸弘 (政策研究大学院大学 1年目)
文 世一 (ARSC会長)
安藤 朝夫 (ARSC副会長)

○応用地域学会論文賞 (Best Paper Award of ARSC) 選考委員会

<論文賞選考規定>

[選考委員会] 第5条：運営委員会によって選出された3名の委員と会長及び副会長の5名によって構成される。委員長は5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。

[選考委員の任期] 第6条：運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

(*任期に関する申し合わせ事項；2014~16の間は、2013年度選任の3名のうち1名が順次退任し、運営委員会が選任した1名を就任する。)

<2016年度選考委員会> (○数字は、申し合わせに基づく退任の順序)

委員長 堤 盛人 (筑波大学) ①
委員 高橋 孝明 (東京大学) ②
河端 瑞貴 (慶應義塾大学) ③
文 世一 (ARSC会長)
安藤 朝夫 (ARSC副会長)

3. 第30回研究発表大会のご案内

第30回研究発表大会実行委員長 浜口 伸明

2016年度大会は、神戸大学の主催で、下記要領で開催いたします。意欲的な論文の発表と活発な討論を期待しております。奮っての参加をお願い致したく、ご案内申し上げます。

(1)大会概要

- ①期 日 2016年11月26日 (土) , 27日 (日)
(総会・懇親会は11月26日(土))
- ②会 場 神戸大学六甲台キャンパス工学研究科棟 (兵庫県神戸市灘区六甲台1-1)
<<http://www.eng.kobe-u.ac.jp/accessmap/index.html>>
- ③参加費 正会員・非会員は3000円, 学生会員は1000円
懇親会費 5000円, 学生2000円

*大会の詳細は、大会ホームページ (7月上旬より公開予定) をご参照ください。

<<https://sites.google.com/site/arsc2016kobe/>>

(2) 発表申込

①発表者の条件 ARSC会員であること

※非会員の場合は大会までに入会手続きを行ってください。

②発表申込み

下記について、添付の「発表申込用紙」をご使用いただき、お申込みください。

(発表申込用紙は、大会ホームページからもダウンロードできるようにします。)

- a. 発表者氏名・所属
- b. 連名者氏名・所属
- c. 発表者連絡先 住所、電話、ファックス、E-mailアドレス
- d. 発表題目(和・英のいずれか)
- e. 要旨(和文200字、英文100語程度。いずれかを記載)
- f. 発表時の使用言語(日本語または英語)
- g. 希望討論者(候補者2名まで)

※候補者の方に事前に打診される必要はありません。プログラム編成や討論者のご都合によってはご希望に添えないことがあります。あらかじめご了承ください。

- h. 発表区分(「一般セッション」「Early Bird セッション」「特定セッション」「シンクタンク・セッション」の区分を記入。次項(3)を参照)

③発表申込方法 申込用紙はE-mailに添付して、下記第30回研究発表大会プログラム委員会まで、お送り下さい。

*メールの件名は「arsc申込(名前)」として下さい。

*発表申込用紙のファイル名は「application(名前)」として下さい。

(例 application(鈴木一郎)など)

④発表申込先 第30回研究発表大会プログラム委員会 E-mail: arsc2016.application@gmail.com

⑤発表申込期限 2016年9月16日(金) 必着

(3) セッション構成と企画の募集

・下記セッションを開催いたします。「特定セッション」と「シンクタンク・セッション」については、広く会員各位からの企画提案を募集しています。

・2016年9月16日(金)までに企画提案をお送りください。(送り先は上記申込先と同じです。書式は問いません。)

一般 セッション	<p>・幅広い論題でのセッションです。下記のキーワード(事例)に限定することなく、ARSCにとって関連のある論題を積極的にご報告ください。</p> <p>《地域問題》 成長と衰退, 地域格差, 産業構造, 雇用・人口, 地方分権, 地方交付税, 国土計画</p> <p>《都市問題》 都市空間, 土地利用, 都市集積, 外部経済, 住宅立地, 都市化, 都市財政</p> <p>《交通》 都市交通, 混雑税, TDM, 航空・港湾, 投資評価, 物流, 通信</p> <p>《環境》 影響評価, 環境税, 水質・大気汚染, 地球環境, 電力, 資源管理, 防災</p> <p>《国際問題》 開発援助, 直接投資, 通貨問題, 貿易・関税</p>
-------------	--

Early Bird セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文等を執筆している若手研究者や大学院在籍中の学生会員が、原則として単著で申し込んだ発表から構成されます。 ・ARSCの将来を担う若手研究者による積極的な報告を期待しています。
特定 セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の論題を重点的に議論するためのセッションです。論点や方法論、対象が共通する論文数編から構成されます（これまでに「新しい産官学連携のあり方ー筑波大学での革新的取り組みー」、「沖縄県の経済振興を考える」、「少子高齢社会の社会保障・教育・環境」「交通混雑緩和と料金政策」、「知識の創造・伝搬と集積の経済」、「人口経済学的アプローチ」などの特定セッションが組まれました）。 ・このセッションの企画を募集しております。オーガナイザーを務めていただける方々からの積極的な応募をお願いいたします。
シンクタンク ・セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・ARSCは、会員による研究成果を実務へ活用するとともに、実務の中で発見された様々な問題を新たな研究課題として会員に紹介するという双方向の展開が重要であるという共通認識に立っています。 ・このセッションは、会員の中で特に計画、政策立案、それに関連する調査等の実務に携わっている方々からの報告や問題提起を基に構成されます。 ・賛助会員の方々をはじめ、実務関係者の方々からの企画提案をお待ちしております。

(4) 今後の予定

①大会プログラム

- ・10月21日頃までに確定し、大会ホームページとニュースレターを通じてお知らせいたします。

②発表原稿

- ・最終の発表原稿を11月12日（土）までに座長、討論者、大会事務局の3か所にそれぞれ個別にお送り下さい。

* E-mailに添付して送られる場合は、必ずPDF形式にしてください。

* 大会事務局宛てのメールの件名は「arsc論文(名前)」として下さい。

* 論文のファイル名は半角アルファベットで「paper(name)」として下さい。

(例 paper(ichiro suzuki)など)

* 座長、討論者の連絡先が分からないときは、大会事務局にお問い合わせ下さい。

- ・大会事務局に論文をPDFで送付していただければ、大会HPに報告論文をアップロードします。（アップロードの期間は本年中とします。）アップロードを希望しない場合は、メールにその旨を明記して下さい。

- ・発表会場には、論文またはそれに準ずるもののコピーを30部程度用意して下さい。

- ・発表会場にはVGA接続のプロジェクターのみ準備する予定です。ノートPCなどをお持ち下さい。

(5) 2016年大会実行組織（敬称略）

大会実行委員会	委員長 浜口 伸明（神戸大学） 委員 小池 淳司（神戸大学）、水谷 淳（神戸大学） 石黒 一彦（神戸大学）、織田澤 利守（神戸大学） 瀬谷 創（神戸大学）、松尾 美和（神戸大学）
プログラム委員会	委員長 高橋 孝明（東京大学） 委員 石倉 智樹（首都大学東京）、岩田 真一郎（富山大学） 織田澤 利守（神戸大学）、高塚 創（香川大学） 中島 賢太郎（東北大学）

〒657-8545 兵庫県神戸市灘区六甲台2-1

神戸大学経済経営研究所 浜口研究室

電話/Fax：078-803-7011

E-mail：kobearsc2016@gmail.com

4. 2016年度坂下賞候補者の推薦について(候補者を公募します)

坂下賞選考委員会委員長 曾 道智

応用地域学会では、日本における地域科学の研究を発展させ、当学会を地域科学研究の世界的拠点にする視点に立ち、若い研究者を奨励することを目的として、毎年1名の方に『坂下賞』を授与しております。

対象者は、応用地域学会の会員かつ2016年12月31日に満40歳以下の方で、地域科学の理論的研究、実証的研究及び政策的研究のいずれか(あるいは複数の領域)で大きな貢献をなし、現在もなお継続的に研究活動を行っていることが条件となります。

2011年度から一般会員からの推薦も含めて選考することとなりましたので、奮ってご推薦下さい。

2016年度坂下賞 <募集要領>

推薦資格：応用地域学会員であること

推薦者数：原則として被推薦者(候補者)1名につき、推薦者1名(自薦も可)

応募書類：推薦書(A4一枚：推薦書様式参照)および業績リスト(様式は任意)

締 切：2016年10月1日(土) 17時

(必着：メールの場合は受け取りを確認すること)

宛 先：下記までPDFあるいはWORDのファイルをメールに添付して送付。あるいは郵送のこと。

〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号09

東北大学 大学院情報科学研究科

曾 道智 宛

e-mail：zeng@se.is.tohoku.ac.jp

なお、推薦された候補者は、坂下賞選考委員会で、委員会推薦の候補者と併せて審議され、受賞者が決定されます。受賞者は、応用地域学会総会(2016年11月26日、於神戸大学)で、発表・表彰いたします。

2016年度坂下賞選考委員会

委員長 曾 道智 (東北大学)

委 員 多々納 裕一 (京都大学)

城所 幸弘 (政策研究大学院大学)

文 世一 (ARSC会長)

安藤 朝夫 (ARSC副会長)

5. 第6回アジア地域科学セミナー

東北大学 安藤 朝夫 (ARSC副会長)

アジア地域科学セミナーは、ご案内の通り、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会 (ARSC)、中国地域学会 (RSAC)、台湾地域学会 (CRSA-T)、韓国地域学会 (KRSA) の共催により毎年開催しています。(第1回北京、第2回北九州、第3回花蓮、第4回ソウルと、上記4学会が持回りで担当しており、昨年の哈爾濱 (ハルビン) から2巡目に入りました。)

第6回アジア地域科学セミナーは応用地域学会の担当で、2016年9月24日～26日、東北大学情報科学研究科 (仙台市) で開催されます。発表申し込みは、5月末の締切時点で、日本 (ARSC) からは31件、中国から59件、台湾から11件など、合計107件に達しています。セミナー最終日に当たる9月26日は、東松島・石巻方面の津波被災地における復興市街地整備事業 (高台移転・嵩上げを伴う区画整理事業) に関する「テクニカルツアー」を実施する方向で検討中です。

第6回アジア地域科学セミナーに関する最新情報は、ARSCホームページの「アジア地域科学セミナー」のメニューからご覧ください。<<http://www.arsc.org/jp/>>

6. 2015年度決算(概要)について

事務局 宮本 成雄

2015年度 (2015年4月1日～2016年3月31日) 学会決算 (概要) は、次表のとおりで、繰越金を60万円減少させ、繰越金は390万円弱となる見込みです。2015年度の会費収入は、2014年度に比し、若干少なく、研究発表大会での会場費補助があって、大会への費用負担は少なかったものの、その他での費用増などもあり、繰越金を減らす結果となりました。今後、賛助会員の確保や会員増に努めるとともに、経費節減などを進めていきます。

本決算結果は、監査委員による監査後、本年度大会での総会にて会員の皆様への報告がなされ、審議される予定です。なお監査委員は、昨年度に引き続き、中島賢太郎 (東北大学) 及び塚井誠人 (広島大学) の両先生にお願いすることになっております。(詳細の報告は、監査終了後、総会承認後のニュースレターに掲載します。)

2015年度決算(案)概要 ()内は2014年度

(単位: 万円)

収 入		支 出	
繰越金	448 (508)	RURDS購読	340 (344)
会費 (国内, 国際, 賛助)	485 (540)	「応用地域学研究」刊行	84 (55)
年次大会参加費等 (含懇親会費, 会場費補助)	127 (85)	年次大会開催費(含懇親会費, 会場費)	129 (139)
		坂下賞, 論文賞	14 (14)
その他 (雑誌販売等)	3 (1)	国際会費	23 (21)
		事務費, その他	85 (103)
収入合計	1,063(1,134)	支出合計	675 (686)
(繰越金を除く収入計)	615 (626)	繰越金	388 (448)

7. 2016年度第1回運営委員会報告(概要)

事務局 宮本 成雄

2016年度第1回運営委員会が5月21日(土)に行われました。議事録等の詳細が必要な方は事務局までお知らせ下さい。以下に、議事の要点をご紹介します。

日 時：平成26年5月21日(土) 16:00~17:30

場 所：大手町ビル6F(東京都千代田区大手町) 三菱地所673会議室

出 席：20名, 委任状8名

議事要旨

(開会に先立ち、文会長より、森杉壽芳元会長の急逝と哀悼の意が述べられ、一同黙祷した。)

1. 運営委員選挙結果報告 (前掲)

2. 事務局体制について

*2016年度からの事務局業務体制が報告され、確認された。

- ・運営委員会に置かれている運営幹事は、今後、実質的に事務局業務の幹事業務を担う。

総務：会員の入退会、会計；決算・予算、渉外：ニューズレター

(運営幹事は、各担当業務の責任者となり、総会での報告等を行う。)

- ・事務局業務は、宮本成雄に代わって、田宮すみ恵が担当する。

3. 運営幹事等役員の選任(2016年度選任)

*2016年度に新規の選任となる、運営幹事(総務、会計、渉外)、研究発表大会プログラム委員会(委員長・委員)、坂下賞選考委員会(委員長・委員)、応用地域学会論文賞選考委員会(委員長・委員)の各委員長・委員を選任した。

* (2016年度役員一覧は、前掲)

4. 2015年度決算と課題

*2015年度決算と課題について報告(前掲)

*繰越金減少に対し、以下のような対応を実施、あるいは引き続き検討していく。

- ・今年度の大会参加費は、一般3,000円、学生1,000円とする。

- ・会費滞納2年で、ジャーナルの送付を停止する。

- ・ARSCホームページに、関連団体・企業のバナーを、有料で掲載する方向で検討する。

(そのための基準・内規などを早急に整理する。)

- ・引き続き、賛助会員の確保、会員増に努める(並行して、賛助会員へのメリット、経費節減の議論などを進める)。

- ・RURDSの購読を会員の選択制にすることを検討してはどうかという意見があった。(但し、出版社との、発行部数や価格などの交渉が必要であり、有利にはならないかもしれない。)

6. 2016年度論文賞の選考について(前掲)

7. 2016年度研究発表大会(神戸)の開催について(前掲)

*大会実行委員長の浜口申明先生(神戸大学)より、大会までのスケジュール、大会準備状況、実行委員会メンバーなどが報告され、内容を確認。

*プログラム委員会に、開催校から、織田澤利守先生を加える。

*昨年同様、論文発表申込みはプログラム委員会へ、参加申し込みは大会実行委員会へとする。

8. 2016年度 第6回アジア地域科学セミナーの開催について(前掲)

*副会長安藤朝夫先生より、東北大学で開催予定のアジア地域科学セミナーの開催状況について報告があった。

9. ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

① 応用地域学研究

編集委員長の大澤先生(筑波大学)から以下の報告がなされた。

*編集委員長大澤義明先生より、査読状況並びに、No. 20の編集状況についての報告があった。

*No. 20については、2016年の秋、大会前には発刊できるよう鋭意準備が進められている。

② RURDS

編集委員長宇野公子先生より、RURDSへの投稿状況、アクセス状況などについての報告があった。

*ヨーロッパ、USAでの読者が多い。日本人向けの販路拡大も必要。

*事前却下を除く投稿者数は、2015年は、34本、2016年は、現時点で6本。日本人の投稿が少ない。特に若い日本人の投稿を促したい。チラシの配布なども検討する。

*投稿者は、South Asiaに偏っている傾向がある。RURDSであれば、採択されるとみられている可能性もあるので、採択基準を上げるようしている。

*Social Sciences Citation Indexに載せ、格付けとPR効果も期待したい。

かねてから病氣療養中であった森杉壽芳先生が、5月18日未明、永眠されました。72歳でした。森杉先生は、社会基盤整備の費用便益分析に関する基礎理論ならびに実務への応用について研究され、内外から高い評価を受けております。当学会には創立時から参加され、1997～1999年には第6代会長をお務めいただきました。ここに深く哀悼の意を表し、心よりのご冥福をお祈り申し上げます。

8. 特別寄稿 ～森杉壽芳君へのお別れの言葉～ 2016年5月21日(土) お通夜にて

甲南大学 特別客員教授 藤田 昌久 (第7代会長)

森杉君、こんばんは。君の悪友の藤田です。今、君のお通夜のために、ここに沢山の人が集まっております。しかし、全く突然のことで、君が亡くなったという実感が湧きません。そこで、このお通夜では、お別れの言葉に代えて、小生の君との思い出を、思い出すままにお話しさせていただこうと思います。良かったら、君の好きなワインでも飲みながら聞いてください。

小生が森杉君と最初に会ったのは、1962年の4月、京都大学の土木工学科に入学したときです。君は昭和18年山口県の下関市の生まれで下関西高校卒、小生は同年山口県の片田舎の秋穂町生まれで山口高校卒。同郷の誼みもあり、入学式で会って以来、今日まで54年間、君は小生にとって無二の親友でした。また、二人は学者・研究者として、生涯を通じてほぼ同じ道を歩んできた気がします。

二人とも、土木そのものは大好きでしたが、大学の授業はほとんどサボって、二人で連んで、いつも何か別のことをしていましたね。特に思い出深いのは、教養部のときに、経済学部友達も含めて5人くらいで、マルクスの『資本論』を君の下宿で毎週一回輪読し、1年以上かけて読破したことです。また、毎回の輪読の後、なけなしのお金を出し合って、ビールを買っての飲むのが楽しみでしたが、当時の君はお酒には全く弱かったですね。最近全く逆になりましたが。

さて、学部の4年生になると、森杉君は長尾教授の港湾施設研究室に入り、君の生涯の研究テーマ

となった、公共プロジェクトの経済効果を、当時は日本ではほとんど知られていなかった費用便益分析の理論を用いて研究し、すばらしい卒論に仕上げましたね。小生は、天野先生の都市交通研究室にはいり、都市鉄道網についての卒論をなんとか仕上げました。

学部卒業後は、君は長尾教授に認められ、すぐに助手になり、公共プロジェクトの費用便益分析についての研究を続け、どんどん論文を発表しました。小生も天野研究室の助手としてなんとか採用され、広域交通網整備の経済効果を、計量経済モデルを用いて研究しました。二人は、学部の頃と同じく、いつも連んで毎日を送っていましたが、特に、2泊3日で穂高に登ったのを良く覚えています。

その後、小生は1968年から4年間、米国フィラデルフィアのペンシルバニア大学地域科学部に留学しました。その間、君は京大の助手を続け、69年に勝美さんと結婚、翌年には長男の雅史君が生まれましたね。72年に小生は帰国し、京大で助手を続けましたが、一方、同年9月から、今度は君が単身でペンシルバニア大学の地域科学部に留学しました。博士課程を終える予定で留学したのですが、翌年の73年3月に日本で生まれた長女の優香さんの健康状態が思わしくなく、君は地域科学の修士の学位を得たのち、急遽6月に京都に帰ってきました。幸い、優香さんは、家族の皆さんに支えられてすっかり元気になり、今日も君のお通夜のお世話をしてくれています。

そういうわけで、森杉君のペンシルバニア大学留学は1年近くで終わりましたが、その間に新たに得た経済学や統計学の知識を生かしながら、その後も研究をどんどん進め、費用便益分析の理論を中心とする公共プロジェクトの政策分析の分野において、日本でトップの学者の一人として広く認められるようになりました。75年には、君は三菱総合研究所に引き抜かれて、4月に京都から東京に移りました。小生は、君が我孫子に新しく買った家に引越しの手伝いに行きましたが、その帰りに、「森杉君のいない京都にいても面白くないなあ」と思い、翌年の76年に、小生はペンシルバニア大学地域科学部に助教授として移りました。

その後、森杉君はそれまでの研究をまとめて、『公共土木計画への費用便益分析適用性に関する研究』と題する博士論文を書き上げ、78年3月に京都大学工学博士を取得しました。翌79年には、今度は岐阜大学の加藤先生に引き抜かれて、三菱総研から岐阜大学工学部に助教授として移りました。

そういうわけで、森杉君は日本で、小生は米国でそれぞれ忙しく、再び昔のように二人で連むことはないだろうと思っていました。ところがなんと、君は81年5月から、ペンシルバニア大学の地域科学部に、今度は客員教授として、奥様、雅史君、優香さんと一緒にフィラデルフィアに来てくれました。君と前後して、今日のお通夜と明日の葬儀をお世話してくれています東北大学の佐々木先生、さらには愛媛大学の柏谷先生もペンシルバニア大学地域科学部の客員教授として、ご家族の皆さんで来られました。君達三家族はフィラデルフィア郊外のグレンノルデンに住んでおり、そこに小生の家族も加わり、度々パーティを一緒にしたのは楽しい思い出です。

その1年半近くに及ぶペンシルバニア大学客員教授の期間に、森杉君は「公共プロジェクト評価特論」という講義を担当し、大学院生のみんなに大人気でしたね。その授業を担当すると同時に君は、公共プロジェクト評価について、世界的な研究成果を挙げました。それまでの公共プロジェクトの費用便益分析は、部分均衡分析に基づく比較

的単純なものでしたが、君はその理論的基礎を、市場の失敗も含む、非常に一般的な、一般均衡理論の枠組みに拡張することに成功しました。その研究全体を一冊の英語の本として出版する計画が実現しなかったのは残念でしたが、君の研究成果は多数の論文として国内外で発表されました。特に、君が中心となって提案した、「便益帰着構成表」は、海外ではMorisugi Tableとして有名であり、我が国では全ての交通機関の便益計測マニュアルに採用され、実務理論で利用されてきています。

そういえば、その2回目のフィラデルフィア滞在中のもう一つの大成果を思い出しました。君の家族はフィラデルフィアに着いたときは4人でしたが、帰国時には奥様のお腹にもう一人が加わっており、次男の育生君が83年2月に生まれました。どおりで育生君はアメリカが好きで、現在はシリコンバレーで活躍していますが、今日のお通夜に来てくれています。

その後、森杉君は岐阜大学教授、アジア工科大学教授、東北大学教授、日本大学教授、さらには応用地域学会会長等、教育と研究に大活躍してきましたが、それについてはよく知られておりますので、今日は割愛させていただきます。

申し遅れましたが、君は奇兵隊が創設された下関で生まれたせいか、高杉晋作に似て、大変気さくで明るく、全てにおいて前向きで革新的、かつ親分肌の人柄でしたので、行く先々で常に多くの若手研究者を惹きつけ、多くの人材を育て上げてきましたね。特に、岐阜大学時代には、「岐阜マフィア」と呼ばれている公共プロジェクトの研究グループを作り上げ、また東北大学時代には「仙台マフィア」を作り上げました。小生が察するに、今は天国で、2009年に若くして亡くなりました上田孝行君等と一緒に、「天国マフィア」を作っているところだと思います。小生も、そのうち、君の天国マフィアに参加できる日を楽しみにしております。

最後に、心より君の冥福をお祈りし、家族の皆様に深くお悔やみを申し上げます。

9. 事務局だより



ARSC会員現勢

2016年6月20日現在の会員数(昨年度総会以降の入退会者を含む)は以下の通りです。

個人会員 502名(内, 一般会員 436名, 学生会員 55名, 海外会員6名)

賛助会員 5団体(総口数7口)。

事務局体制の変更について

2016年度より, ARSC事務局業務は田宮すみ恵が担当いたします。宮本成雄事務局長には1年間, 事務局移行を支援いただきます。

事務局からのお願い

◆ 会員の皆様の登録情報は, メール連絡やジャーナル等の送付に重要な情報となっています。変更があった場合は, 会員ページ (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>) にログインし, 速やかに登録情報の変更をお願いいたします。

◆ 地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人または団体が周囲に居られましたら, 是非入会をお勧め頂くようお願い致します。新規会員の入会申込はARSCのホームページ (<http://www.arsc.org/>) の「入会手続き」より行ってください。入会に関するお問い合わせは, ARSC事務局にメール (clerk@arsc.org) まで。

◆ 事務局やニュースレター等に対しまして, ご意見や新しい企画等ございましたら, 是非, お知らせください。

編集 後記

2011年3月11日のその時間, 四国・高松の港近くに建つ合同庁舎ビルの13階にいた。ビルはゆっくりだがはっきりと分かる振幅で, しばらくの間揺れたのを今も憶えている。当初, 仙台でのアジア地域科学セミナーはその日のちょうど半年後に予定されていた。5年経った。

被災者の方々の傷は簡単には癒されない。でもそれと対照的に物的なインフラは急速に復旧していったように見える。加えて仙台の街には昨年末, 新しい地下鉄が開業した。地下鉄は大学のキャンパス内を走り, この9月に開催されるアジア地域科学セミナーの会場の目の前まで連れて行ってくれる。多くの方がこの地下鉄に乗ってセミナーに参加し, アイディアを交換し, 仙台の街に力を与えることを願いたい。(TH)

ARSC NEWS No.91 (2016年6月発行)

発行元 応用地域学会事務局 (文部科学省学会コード=10023)

会長: 文 世一

ARSC NEWS 担当: 高塚 創 (渉外担当幹事) / 田宮 すみ恵 (事務局)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町126 NITTOビル (株)メッツ研究所内

TEL: 03 (5227) 7804 / FAX: 03 (5227) 7807

Email: clerk@arsc.org / 学会HP: <http://www.arsc.org/jp/>